

# 危ない中国産りんごジュースと茶葉

果汁100%のりんごジュースは健康によいとして、健康飲料として飲んでいる人も多いようだ。しかし、生りんごは国産がほとんどだが、りんごジュースは、国内消費量の8割以上を輸入に頼っている。しかも輸入量のおよそ7割にあたる62,241トンが中国産だ(2012年財務省貿易統計)。

しかし、りんごジュースのパッケージを見ても、産地を表示していないことが多い。これは果汁飲料は、原料産地を表示する義務がないからだ。

したがって、消費者が国産だと思って飲んでいる果汁100%のりんごジュースは中国産の可能性が高く、私たちは知らないうちに中国産のりんごジュースを飲んでいることになる。

## ずさんな検疫体制

これは今年6月21日に成立した「食品表示法」と日本の検疫体制が抜け穴だらけだからで、ポイントは以下の2つ。

- 1) 加工食品の原産地表記義務があるのは、わずか22食品群+4品目。しかも加工の複雑化に伴い原材料の表示が省略されていく。もはやメーカーさえも原料産地を把握できない。
- 2) 検疫の実物検査は「全輸入量の10%」とされているが、ずさんなサンプリングで統計的に意味をなさない。たとえば、輸入される玉ねぎが100トンでも10キロでも、わずか1個の抜き取り検査がほとんど。しかも残りの90%は「食品等輸入届出書」という用紙だけで通過してしまう。日本の検疫所では、毎日食品衛生検査員が半日で1,000枚もの膨大な届出書をチェックし、そのほかに、各言語で書かれた関係書類も見なければならない。そんな状況で食品の安全、安心が確保できるとは到底考えられない。

## 農薬の多投と土壌汚染の脅威

果物は特に病害虫の影響を受けやすいので、中国では違法な農薬が多用されている。

りんごの名産地である山東省では、有機硫黄や有機



ヒ素など違法な農薬を大量に塗布した「袋」をリンゴにかぶせるという農法が拡大しているという。

さらに、もう一つ重大な懸念がある。中国の農地で、カドミウムやヒ素など工場排水による重金属汚染が深刻化しているが、りんごなどの果実がその影響をものに受けることだ。果物類は木の幹を通じて大量の地下水を吸い上げるので、地下水が汚染されていれば、それが果実に凝縮されてしまう。

## ウーロン茶やペットボトル入りの緑茶も中国産茶葉

問題はジュースだけではない。ウーロン茶やペットボトル入りの緑茶も茶葉の大半が中国産だ。

昨年12月、伊藤園が販売する中国福建省産茶葉を使用したウーロン茶のティーバッグから残留農薬が検出され、約40万個が自主回収された。

中国産茶葉を輸入している業者の9割は検査体制すら整っていないのが実情という。結果として、農薬まみれの中国産茶葉が日本の市場に出回っている可能性が非常に高いといわれている。

健康によいとして飲んでいる果汁100%のりんごジュースや緑茶、ウーロン茶が中国の土壌汚染や残留農薬などにより、飲み続けることで健康を害する可能性が高いとは悲しいかぎりである。

(文責：田村 和子)